

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2013. 4. 9)

－2013年1～3月期実績と2013年4～6月期及び2013年7～9月期予想－

京 都 商 工 会 議 所
担当：中小企業経営支援センター
電話 (075) 212-6467

国内景気が2010年4～6月期以来のプラス
～京都企業の自社業況は低調、先行きには期待感も～

概 要

今期の国内景気は、円高解消による日本製品の国際競争力回復、日経平均株価の上昇など明るい材料が連日続いたことから上昇に転じた。一方自社業況は、建設業など一部の業種では上昇したが、需要期であった前期の反動から観光関連や食料品製造・卸などが下降となったほか、輸出関連の製造業でも円高解消によるプラス効果は一部企業にとどまり、円安による原材料・燃料高などマイナス影響もあって中小企業を中心に厳しい状況であった。今後は、国内景気回復への期待感は着実に高まっており、自社業況の先行きは上昇基調に向かいつつある。

(注) 2月中旬から3月上旬にかけ同調査を実施し、590社中485社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。また1～3月期のBSI値は、2012年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

1～3月期のBSI値は、9.5(前期実績▲17.3)と、上昇に転じた。今後の4～6月期は21.5、続く7～9月期も14.4と上昇が続く見込みとなっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 1～3月期のBSI値は▲9.2(前期実績0.0)と再び下降した。今後の4～6月期は4.6と上昇に転じ、続く7～9月期も2.3と上昇が続く見通しとなっている。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高 1～3月期のBSI値は、▲10.6(前期実績3.6)と減少に転じた。今後の4～6月期は4.5と増加に転じ、続く7～9月期も2.0とわずかながら増加が続く見通し。業種別では、情報・事業サービス(13.7)、建設業(9.7)、木材・木製品製造(9.1)、料理・飲食(4.2)、不動産業(3.1)など一部の業種では増加したが、旅館・ホテル(▲37.0)、食料品製造(▲33.4)、食料品卸(▲33.4)、染色(▲27.3)など多くの業種で減少した。今後の4～6月期は4.5と増加に転じ、続く7～9月期も2.0とわずかながら増加が続く見通し。

2. 製・商品・サービス・請負価格 1～3月期のBSI値は、▲4.4(前期実績▲2.1)と引き続き下降した。業種別では、木材・木製品製造(13.7)、繊維卸(7.2)、非鉄(4.6)などで上昇、旅館・ホテル(▲23.9)、染色(▲18.2)、電気機械製造(▲12.5)、その他サービス業(▲11.4)などで下降し、業種間で差が見られた。今後の4～6月期は2.3とわずかに上昇、7～9月期は▲0.1と横ばいを予想している。

3. 経常利益 1～3月期のBSI値は▲12.9(前期実績0.0)と減少した。業種別では、情報・事業サービス(15.9)、建設業(3.5)、不動産業(3.1)、電気機械製造(1.8)で増加した以外は、食料品製造(▲37.1)、旅館・ホテル(▲34.8)、食料品卸(▲33.4)、染色(▲31.8)、運輸・倉庫業(▲26.0)などほとんどの業種で減少した。今後の4～6月期は▲0.7とほぼ横ばい、続く7～9月期は▲2.1と減少となる見通し。

4. 所定外労働時間 1～3月期のB.S.I.値は、▲5.7（前期実績4.1）と減少に転じた。業種別では、建設業（26.7）、情報・事業サービス（15.9）、不動産業（6.3）など一部の業種で増加したが、多くの業種で減少した。今後の4～6月期は1.2とわずかな増加に転じ、続く7～9月期も1.6と増加が続く見通し。

5. 製・商品在庫 1～3月期は、「適正」とする企業が73.8%、B.S.I.値8.4（前期実績10.1）となり、適正水準に向かう業種がある一方、一部業種では過剰感が強まった。業種別では、窯業・土石（「過剰」54.5%）、繊維製造（同47.1%）、精密機械製造（同43.8%）、繊維卸（同35.0%）、繊維製品製造（同33.3%）などで過剰感が見られた。今後は、全体としては概ね適正水準で推移する見通しとなっている。

6. 資金繰り 1～3月期のB.S.I.値は、B.S.I.値▲7.0（前期実績▲3.2）と悪化が続いた。規模別では、大企業（▲3.0）、中小企業（▲8.6）とも悪化し、中小企業で悪化が目立った。今後の見通しは4～6月期はほぼ横ばい、7～9月期は悪化する見通しとなっている。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」（58.6%）が前回に続き第1位になった。第2位は「過当競争」（32.0%）、第3位には前回4位の「原材（燃）料高」（30.1%）が続いた。第4位は「製・商品（請負）価格安」（22.7%）、第5位は「人件費負担増大」（14.6%）となった。

Ⅳ 企業経営の今後の方向（年1回3月時点調査で実施）

前回調査に続き、「人材の開発・育成」（前回48.4%→今回46.4%）が第1位で引き続き高いポイントを示した。第2位に前回3位の「製品商品・新技術の研究開発」（34.2%→36.1%）が挙げられた。また前回2位の「国内市場の拡充・強化」（37.2%→35.5%）が第3位となった。

国内景気		実績			予想					
		2013年1～3月期			2013年4～6月期			2013年7～9月期		
		B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計		9.5	34.3	15.4	21.5	48.2	5.2	14.4	33.9	5.2
規模別	大企業	16.0	38.4	6.5	20.1	43.1	2.9	14.8	33.1	3.6
	中小企業	6.9	32.7	18.9	22.1	50.3	6.2	14.2	34.2	5.9
業種別	製造業	8.0	33.7	17.7	21.0	48.5	6.6	15.1	32.6	2.5
	卸売業	6.5	29.0	16.1	22.6	46.8	1.6	13.7	35.5	8.1
	小売業	11.4	27.3	4.5	20.5	40.9	0.0	9.1	22.7	4.5
	建設業	24.2	48.4	0.0	25.8	54.8	3.2	21.0	48.4	6.5
	不動産業	0.0	18.8	18.8	18.8	37.5	0.0	18.8	43.8	6.3
	運輸・倉庫業	7.8	38.5	23.0	25.1	57.7	7.6	12.0	36.0	12.0
	サービス業	12.4	38.2	13.5	20.4	46.9	6.2	11.3	31.3	8.8

自社業況 (総合判断)		実績			予想					
		2013年1～3月期			2013年4～6月期			2013年7～9月期		
		B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計		▲ 9.2	20.2	38.5	4.6	28.3	19.2	2.3	20.7	16.2
規模別	大企業	▲ 2.6	24.8	29.9	6.3	36.1	23.6	6.3	26.5	14.0
	中小企業	▲ 11.8	18.3	41.9	3.9	25.2	17.5	0.6	18.4	17.2
業種別	製造業	▲ 9.1	19.8	38.0	1.7	23.8	20.5	3.8	20.4	12.9
	卸売業	▲ 9.9	22.9	42.6	5.8	27.9	16.4	2.5	18.0	13.1
	小売業	▲ 18.2	13.6	50.0	6.8	31.8	18.2	▲ 4.6	13.6	22.7
	建設業	10.0	33.3	13.3	▲ 6.7	20.0	33.4	8.4	30.0	13.3
	不動産業	3.1	25.0	18.8	6.3	37.6	25.0	6.3	37.5	25.0
	運輸・倉庫業	▲ 30.8	3.8	65.4	21.2	50.0	7.7	0.0	23.1	23.1
	サービス業	▲ 8.9	20.2	38.0	10.1	35.4	15.2	▲ 3.2	17.9	24.3

※ B.S.I.値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$